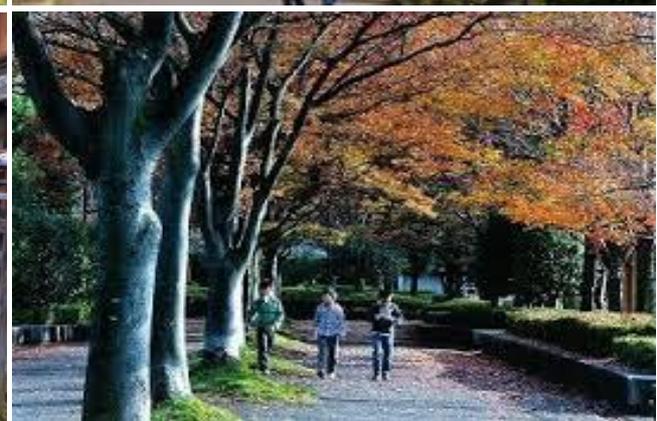


待ったなし！行方不明にならずに
安心・安全に暮らせるまちづくりをともに
～全国各地の取組を参考に、一人ひとりがアクションを～



認知症介護研究・研修東京センター
永田久美子



一人ひとり、まちの中で、自分らしく生きている
北海道から沖縄まで、外出を楽しみ続けられ、無事に家に戻れるまちに

「いつものあそこに、行きたいな」

「用事があって出かけたかった…」

「気晴らしに、外に行きたい…」

「あの人に会いに、行きたい」

★外に出かけたい・・・。

- ・その思いは、いくつになっても、認知症になっても変わりありません。

外出：人として自然な願いであり、あたりまえのこと（人権）

- ・「外に出なくなつた」「出たがらない」と言われている人も本音をよく聴くと・・・

→「本当は、外に行きたい」

「行きたいところがある」「会いたい人がいる」

その思いが封じ込められたり、

本人自身があきらめている人が無数にいます。

戸外(地域)に出ることの、かけがいのなさ

* 特に、認知症とともに生きる人にとって



●解放感、ストレス発散、五感の快刺激

- ・外にでると、気持ちいい。のびのび
- ・ストレスを発散、心身状態が健やかに
- ・五感の快刺激で生き生き



●時空間の感覚、記憶の活性化・強化

- ・外にでることで、季節感、時間、場所の感覚、記憶が蘇る、保てる、強まる。

地域
健やかに自分らしく
生きていく舞台



●楽しみ・喜び・活躍、自分らしさの宝庫

- ・外にでると、楽しみや喜び、活躍のチャンスがいろいろある。
- ・本人らしい言葉や所作の力を発揮できる。



●出会い・つながり・絆の広がり・深まり

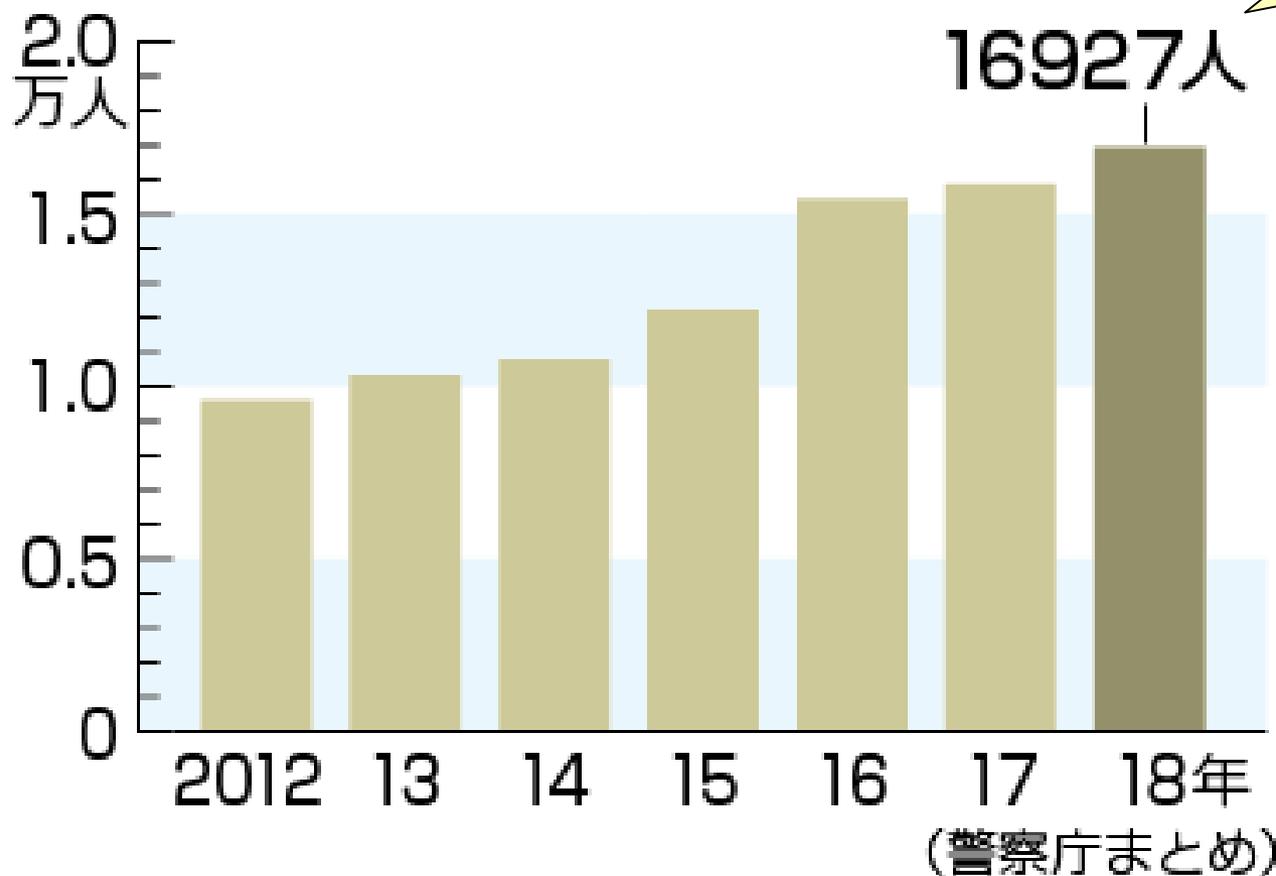
- ・なじみの人とつながりを保てる。
- ・新しい出会い、つながりが生まれる。
- ・セーフティーネットが拡充していく。

あなたが暮らす地域、働く地域では・・・

- ・認知症の人が、戸外に安心・安全に出かけることができ、無事に家に戻れているでしょうか？
- ・もし・・・自分が認知症になったら、安心・安全に外出を楽しみ続けることができ、迷っても、無事に家に戻れる配慮や支援のある地域でしょうか？
- ・家族や周囲の人は、自分が外出することを、こころよく応援してくれる環境になっているでしょうか？

★現状は…… 認知症で行方不明になる人が、年々、増加

認知症行方不明者数の推移



死亡 508人
未発見 61人

- 一人ひとりの生(命、生活、人生)の重大な危機
 - *無事見つかったとしても
 - *家族や関係者にとっても

※警察が、届け出を受理した数。

※65歳以上の人数。

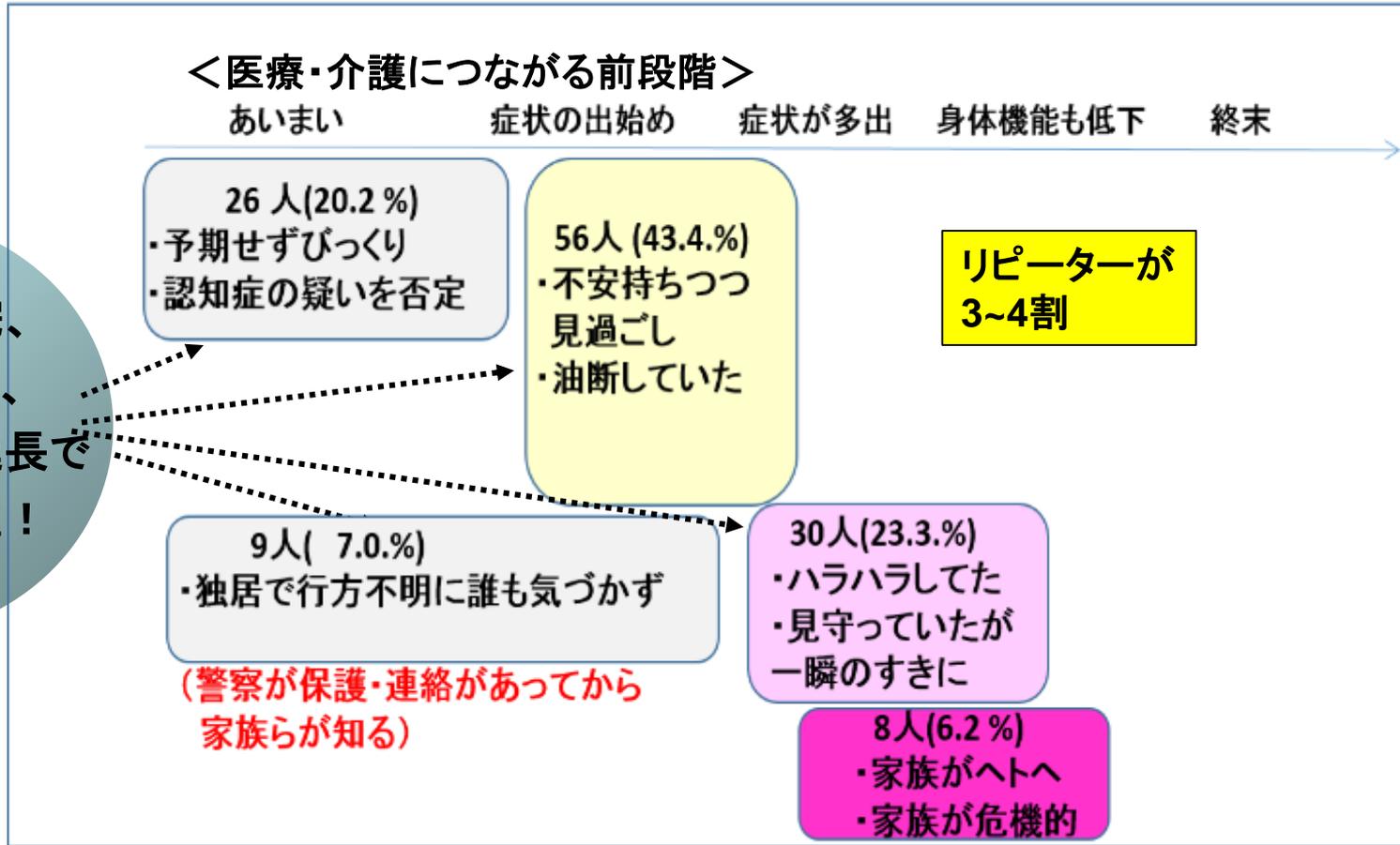
実際の認知症の行方不明者の氷山の一角……

参考

行方不明は、まだまだ元気な、ごく身近な人に起きている

* 誤解：行方不明は、何もわからなくなった重度の人に起こる

警察に保護された時の認知症(疑い含む)の人の状態と家族の状況



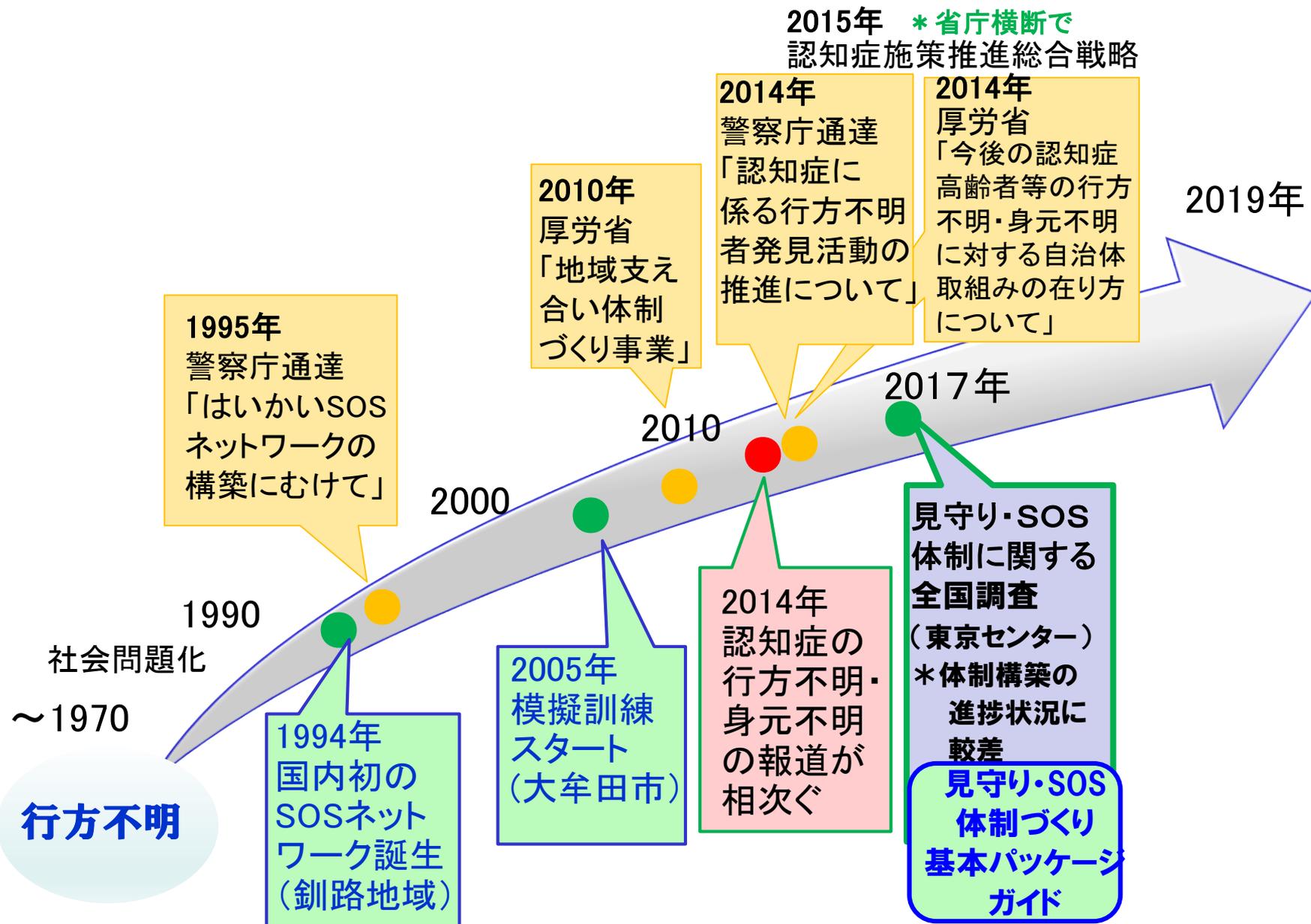
散歩・買物・通院、お出かけ途中等、普段の生活の延長で行方不明が発生！

釧路SOSネットワーク利用者10年間の調査(2003年)結果より
資料:「認知症の人の見守り・SOSネットワーク実例集」

N=129

「備え+いざという時の即応体制」があれば、救われる人が大勢いる！

認知症の人の「行方不明」は、「旧くて新しい課題」 長年、無数の試行錯誤が積み上げられてきてはいるが...



「見守り・SOS体制づくり 基本パッケージガイド」



(東京センター、2018年3月)

DCネットより入手を

参考 全国市区町村の支援体制整備の進捗状況

認知症の人の行方不明や事故等の未然防止のための見守り体制構築に関する調査研究事業、東京センター、2017年度

市区町村によって、見守り・SOS時の体制整備に大きな開きが生じている
→年々、着実に体制整備を進め成果を上げている地域もある

【市町村調査結果】

N=1,083

【管内市区町村の見守り・(行方不明発生時の)SOS体制の拡充状況】

- | | |
|---------------------------|-------------|
| ① 普段からの見守り体制とSOS体制を一体的に拡充 | 115 (10.6%) |
| ② 整備されつつあるが一体的な充実はまだ | 318 (29.4%) |
| ③ 普段からの見守り体制は整備、SOS体制はまだ | 209 (29.3%) |
| ④ 普段からの見守り体制はまだ、SOS体制は整備 | 181 (16.7%) |
| ⑤ 普段からの見守り体制も、SOS体制も、未整備 | 166 (15.3%) |
| ⑥ 把握していない | 86 (7.9%) |

★どこで暮らしていても、安心・安全に外出を続けられるように
先行地域を参考に、全市町村が体制整備を進めていくことが急務

★体制づくりのポイント:先行地域の共通点

1. 方針の共有を

2. 本人の声を聴く、本人視点で取組む

3. その一人からちょっと一緒に動いてみる:

* まずは動きながら、よりよく

4. 地域の多分野・多世代の人がつながり、語り合い、外出を楽しめ
安全な地域にするためにできることから一緒にアクション!

5. 地域の効率的な仕組みをつくる: 討議、試行、検証、改善を

* 本人の流れにそって: ふだん～SOS時～アフターフォロー



どの地域でも
できるよ～。

★推進役を中心にチームを育て、続ける。年々拡充を。

★1. 方針の共有を

人や道具が増えても、共通方針がないとバラバラ。偏見助長の恐れも
(本人を脅かし逆効果になってしまうこともある、円滑に進まない、長続きしない)

方針？

身近な人達

家族、住民、子供たち



支援専門職

医療・福祉・介護・法律等



暮らし



町で働く人達

あらゆる産業・組織



行政
あらゆる部署

地域のあらゆる分野・立場・世代の人たちが大事な協働者

1. わが事として
おたがいさま！
他人事でない
共によりよく暮らそう【共生】
(互いにメリットがある)

2. 特別視せず
自然体で

大人としての
あたりまえを大切に

方針

みんなの
合言葉に！

4. 絶望的にならず
小さな希望を

希望の良循環を
一緒につくる

3. 本人の声と力
を大切に

本人抜きに進めない
手がかりは本人の中に

★「監視」ではなく
温かいまなざしを
★一人ひとりが地域で
暮らし続けられるように

わが事として、おたがいさま！

他人事でない、共によりよく暮らそう【共生】
(互いにメリットがある)



お店の従業員が

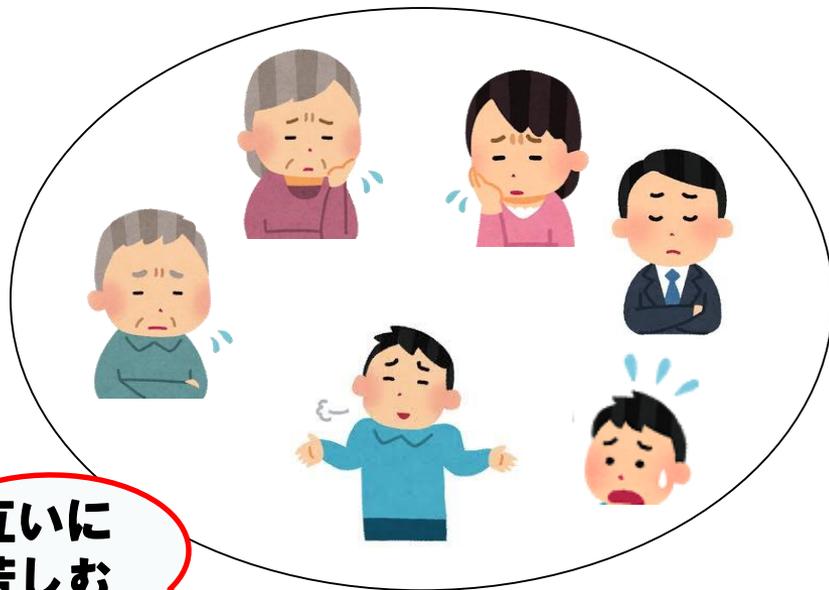
- * 認知症かな？という人がとっても増えている。
- * 親や私も、他人事でない。
- * 大事なお客さんに安心して買物してもらえたら、うれしい。
- * こうした人たちが、日々買物にきてもらえれば 売上が増える！



金融機関の職員が

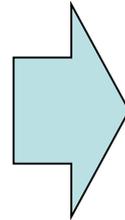
- * この方を通じて、職員みんながより良い見守り方を具体的に学ぶことができました。
- * 人手不足、時間がないからこそ日々の見守りを大事にすると、業務効率や職員のストレス減にもつながってます！

絶望的にならずに、希望の良循環を一緒につくろう



絶望の悪循環

- 他人事、問題重視、**社会から疎外**
- 暗く、楽しみなく、ピリピリ
- ⇒お互い消耗、対立、孤立、
- ⇒状態や生活悪化、互いの力が削がれる
- ⇒互いの負担・苦悩増加、世代間対立
- ⇒若い世代含め社会全体が絶望的



希望の良循環

- わが事、可能性重視、地域で共に
- 明るく、楽しく、伸びやかに
- ⇒お互い伸び伸び、仲良く、つながり
- ⇒状態安定、互いの力が伸びる
- ⇒互いが楽に、負荷最小化、世代融合
- ⇒若い世代含め社会全体が希望持てる

一人ひとりがチェンジメーカーに！

★特に、行政職、専門職、組織の上層部の人たちが

★2.本人の声を聴く。本人視点で取組む

本人の声を聴かずに取組むと、空回り。無駄が多く、取組が形骸化。

(声を聴かないこと自体が、本人を脅かす。存在不安、混乱、状態悪化の元凶)

- ・本人は「話せない」「無理」と決めつけないで。
- ・本人の声に耳を澄ます。本人同士で語り合う機会を作る。

* 本人ミーティング

- 
- ①ふだん、地域に出て楽しく過ごすチャンスを広げる
 - ②その過程での、バリアや必要なことを見つけ、安心・安全な外出を保つ、増やす。
 - ③ヒヤリ体験、迷った(行方不明)体験を聴いて、具体的な対応策や改善、次の備えを。
 - ④ヒヤリ体験、迷った(行方不明)体験後の日々の様子・変化を聴いて、アフターフォロー。

★本人なりの工夫、アイデア、できることを聴いて取組と一緒に参画を

何気なく、暮らしている地域だが...

チャンス
バリア

バリア
チャンス

チャンス
バリア

バリア
チャンス

バリア
チャンス

バリア

バリア
チャンス



本人たちから見ると...

本人は目的もなくウロウロしている…わけではありません。

発見時の本人のことば (主なもの)

1. 買い物にきて、レジでわからなくなって、店を出た後、どんどん歩いてたら帰り道が…。
2. 散歩しているうちに、いつもの曲がり角がわからなく焦った。
(曲がり角の建物(目印)がなくなってしまった)
3. 気晴らしに散歩。暑くて、ぼ~っとなって…。
4. 久しぶりに娘と孫に会いに来たんだけど、どこだったか…。
5. お父さんの命日にお参りに。お墓で迷っちゃって…。
6. 仕事に…。

本人なりに目的がある: 行きたい所がある、会いたい人がいる
☆「徘徊」という言葉を使わないように: 誤解・偏見が広がってしまう

★3. 「その一人」から、ちょっと一緒に動いてみる まずは動きながら、よりよく

①一人ひとり、希望がある⇔声を聴き、日常の中で暮らしやすい町を一緒に



買物したい → コンビニの店員が



お金をおろしたい → 銀行員が



いつものを食べたい → そば屋さんが



きれいになりたい → 美容師が



書店に行きたい → 店員が



あの山の紅葉を見たい → 鉄道会社が

増加する認知症の人；医療・介護と同時に、地域の普段の暮らしの中で
（なじみ客として町に出かけ続けられると経済も活性化）

② 「やりたいことがある」 「楽しみを」 ⇒一緒に楽しみ、自然体のつきあい



ギター弾きたい
⇒ギター好きの若者が



卓球したい
⇒卓球好きの人が



山登りしたい
⇒登山好きの人が

問題対策でなく「好きなことを一緒に続けよう」という仲間が広がっている

③「働きたい」、「活躍したい」、「運動や楽しみだけでなく、生きがいを」

★ 好きなことで活躍し、楽しみ、自信を高めながら、地域の支え手として！



町の農園で

→新鮮な野菜を
みんなに食べて
もらいたい

＊施設で暮らす本人も

地域の保育施設で

→子供たちや
保育士のため
日曜大工を



地域の防犯パトロール

→子供の下校時の
見守り役も

本人が生き生き⇔家族も生き生き⇔地域も生き生き（良循環）

④「稼ぎたい」、「収入があると、はりあいになる」



洗車の仕事
*車大好き



地場産業の一員
*技は、ピカー！



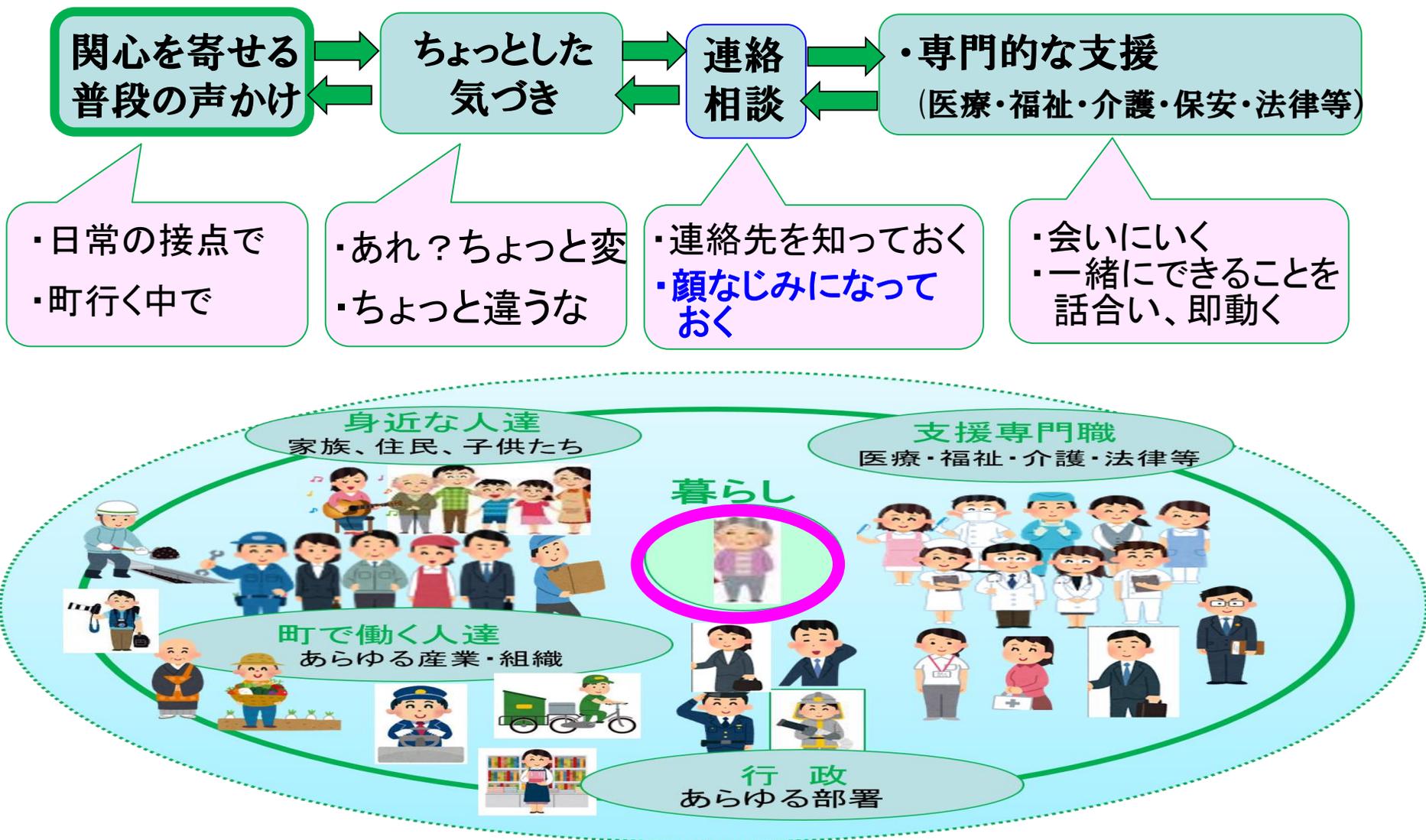
宅配便を配達
*宅配業者の委託

★日本経済新聞
2019年8月13日付

*** 人手不足解消や、地元文化の技の継承としても貴重**

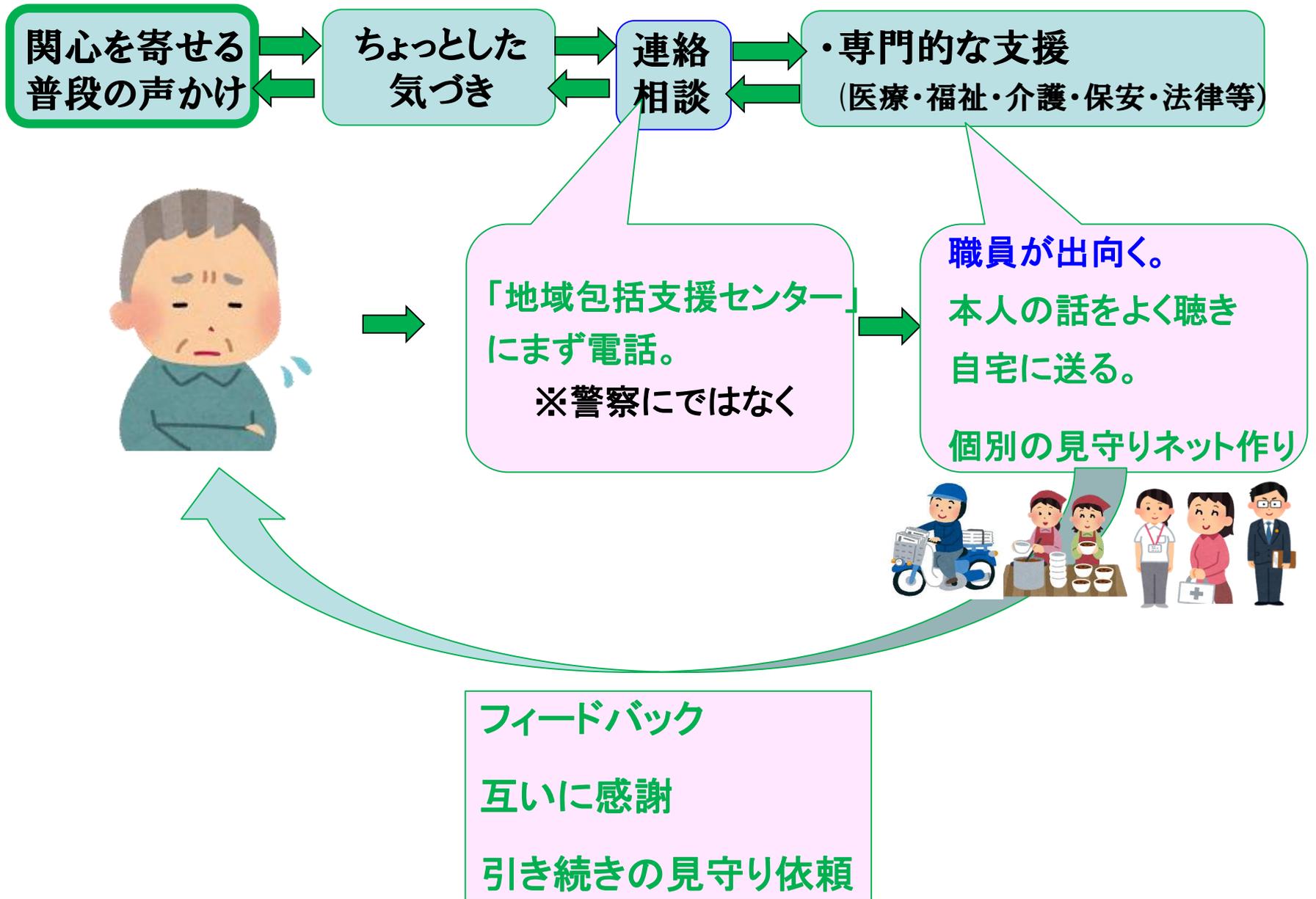
★今後、安心・安全な外出を守ることが、いっそう重要になる。

外出時の不安がある人を、住民と専門職と一緒に支えあう



「一人」の通じて: 小さな成功体験を生み出す ⇒ 動くことで仲間が増える

例：ベンチにずっと座っている年配の人がいてちょっと心配・・・



★4. 地域の多分野・多世代の人がつながり、語り合い、外出を楽しめ、安全な地域にするために、できることから一緒にアクション！

1) 身近な地域でちょっと集まり、できることを話し合おう

* 声かけあって、つながりを活かして集まってみよう

* 町の人たち、働く人たち、行政、専門職と一緒に

他人事ではない、明日はわが身！



* 出会って、直接話し合っておくと、連絡しやすくなる。

* 一度きりでなく、継続的に会う機会をつくる：気軽に相談しやすくなる

* 本人も一緒に参加し話してもらいと、理解が深まりできることが広がる

町の中には、人の暮らしを支えあう様々な人たちがいる

身近な人達

家族、住民、子供たち



暮らし



支援専門職

医療・福祉・介護・法律等



町で働く人達

あらゆる産業・組織



行政

あらゆる部署

お互いの存在を知っている？ つながりあえている？

みんながいてくれるから
私は今日も元気です。

医療、介護、行政の皆さん



身近な人達、町で働く皆さん

(大牟田市 猿渡さん作成)

「一緒に、見守りあおうよ」

多様な立場の人たちに声をかけあい、集まりを開催

※最初は「集まるかな〜？」と心配だったが・・・。

どの町でも！
きっかけを
待っている人が
たくさんいる！



日々町を回り配達をしている若者が：
忙しい中を駆けつけてくれた
普段から気がかりな人に声かけしてる



地元信金の職員が：
大事なお客さんを守りたい
進行・発表役を自ら



民生委員、介護・医療職員が：
自分たちだけでは、見守りきれない
町で働いている人の力が協力！



地元企業と地域の人、専門職が：
普段からもっと気軽に声かけあおうよ。

SOS時の模擬訓練も、地域の人みんなで話し合い、企画・実施

参加者： 民生委員 町内会長(大字湯沢西地区) 雪国観光舎(湯沢温泉旅館組合・越後湯沢民宿組合) 南魚沼警察署 湯沢町社協 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 特別養護老人ホーム併設通所介護 病院 ボランティア連絡協議会 町議会 健康福祉課 総務課

SOS探索わが町アクションミーティング



「他人事」でなく、「わが事」として考えられるようになるきっかけの訓練にしたいね。

特別な訓練では実際の場面で実動できない。普段の生活の中で起こる内容を無理のない方法で実施してみよう

行方不明になった人が、どんな気持ちか……。訓練当日は、本人、家族の気持ちになって、道を歩こうよ

★5. 地域の効率的な仕組みをつくる：討議、試行、検証、改善を 本人の流れにそって：ふだん～SOS時～アフターフォロー

①本人、家族が備える仕組み

- 事前登録
- 個別ネットワーク作り、マップ作り、
機器活用
- 更新、話し合い

②地域の協力者がふだんから備える仕組み

- 協力者事前登録
- 地域での話し合い、講座、集い場
模擬訓練等に参加・協力
個別ネットワークへの協力
- 更新、話し合い

③SOS時の即応体制

- 連絡リスト + 情報共有の取決め
- いざという時の連絡網・連絡体制
- 役割分担して探す流れ・手引き

④アフターフォローの体制・流れづくり

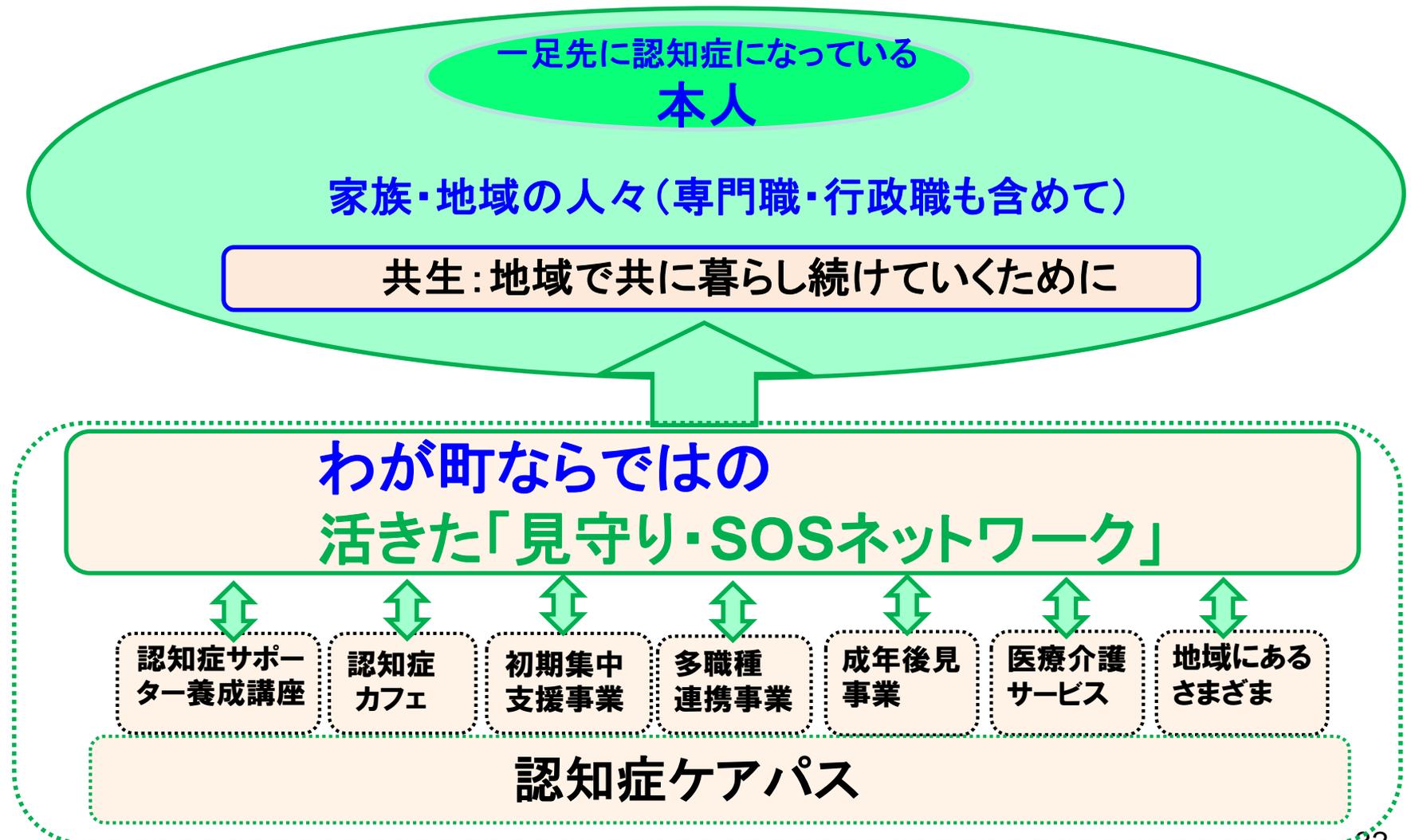
*本人の

*家族の

市町村や現場で
動きやすいように
都道府県が
全域レベル、広域
レベルでのつながり、
仕組化、稼働を後押し

見守り・SOS体制づくりは、 すべての認知症事業の集大成

* 各事業が活性化するための重要なテーマでもある



市区町村の取組・体制づくりを発展させていくためには 推進役・推進チームの存在が不可欠

* 担当者が変わっても持続発展を牽引



推進役・推進チーム

地域で様々

例)・行政担当者

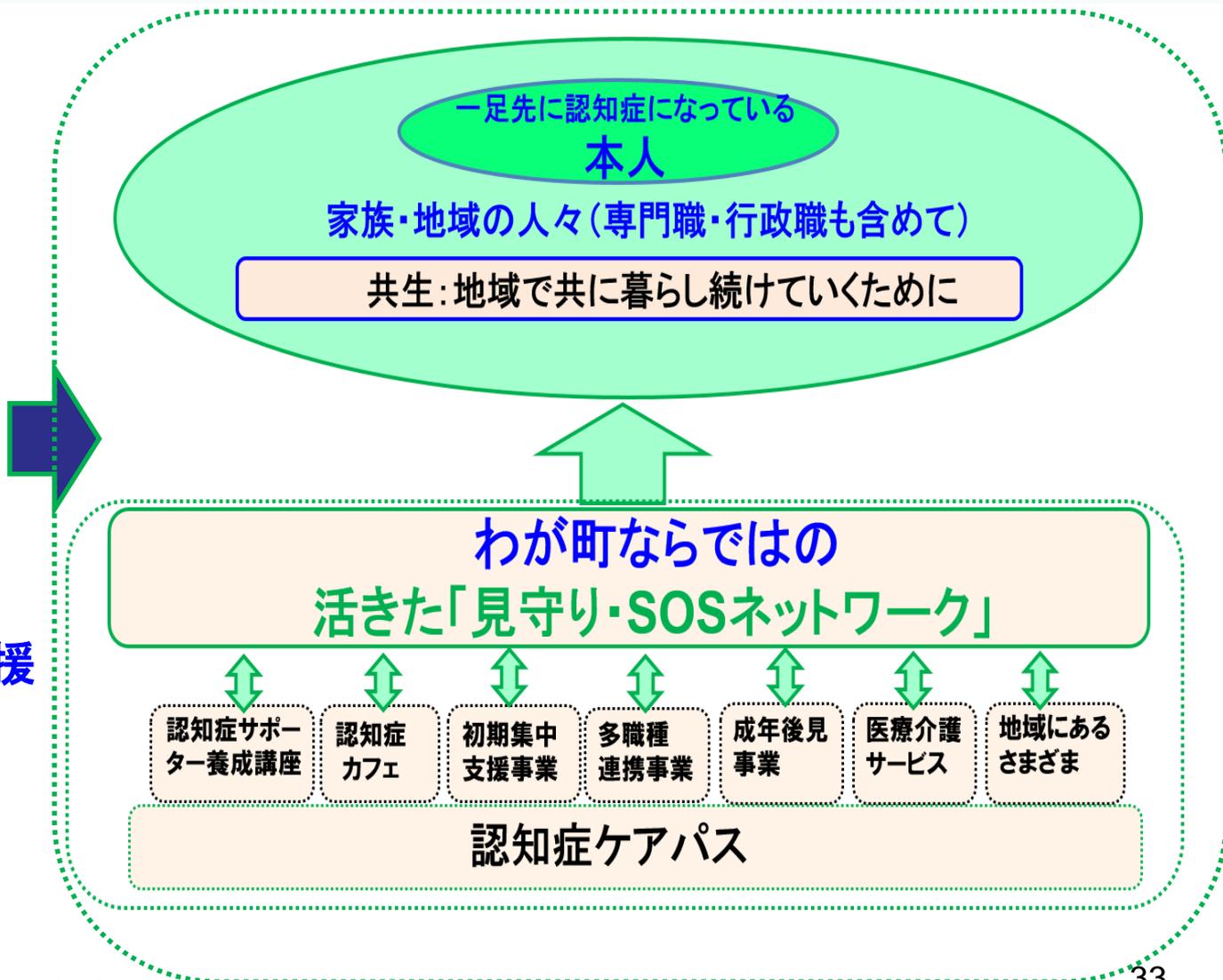
◎認知症地域支援
推進員

・地域包括支援
センター職員

・サポート医

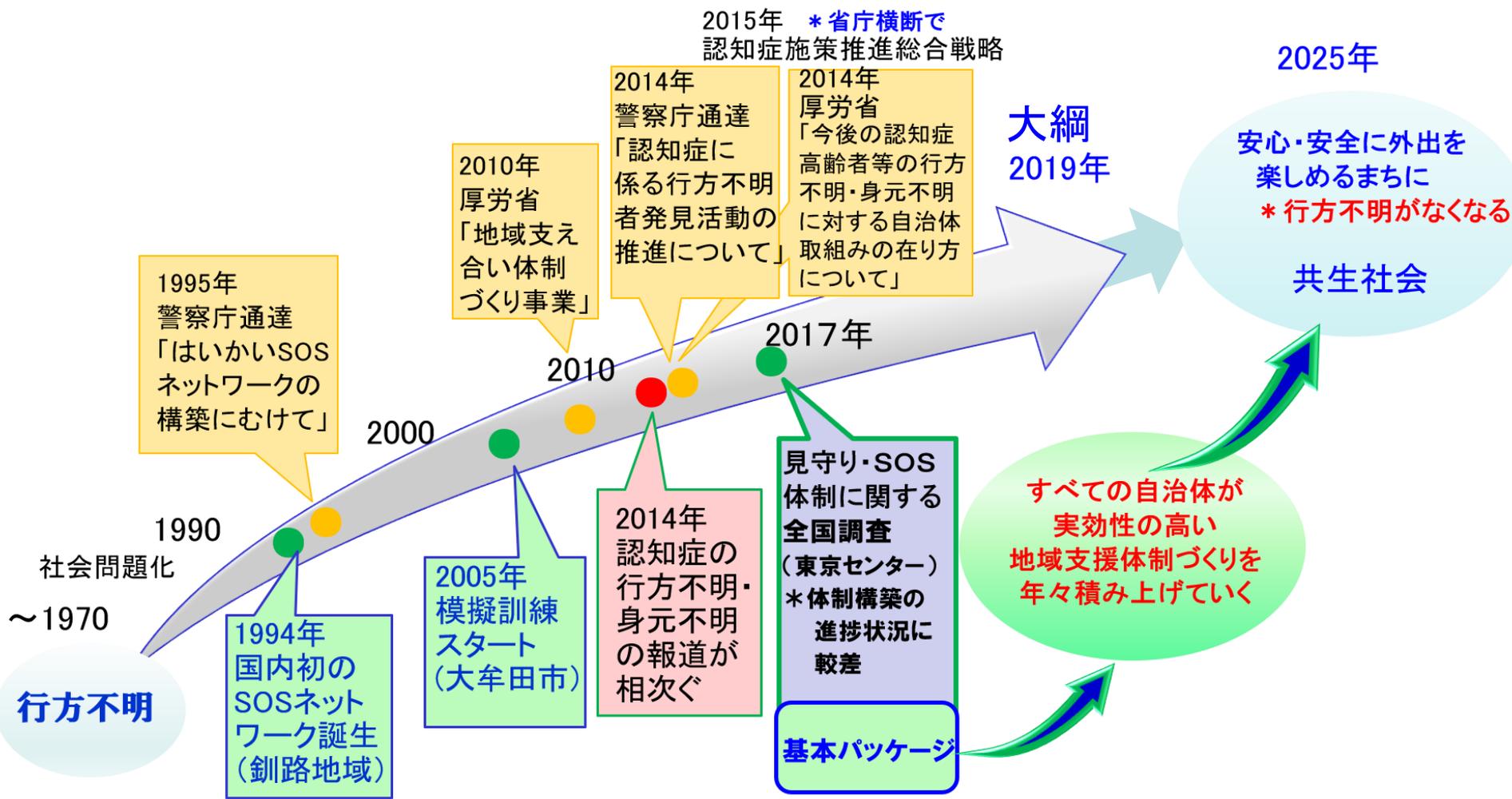
・介護事業者

・住民、家族、本人など



ここから、どう進んでいけるか？

取組みを積み上げてきている地域情報を参考にしながら
それぞれの自治体、地域で、この先の一步へ



本人のことばより

- だめ、しないでいい、あぶない・・・、そればかりいわれる。
情けない。いやんなる。 少しでもいい、自由にさせて。
- 世話になる一方は、つらい・・・。
おとうちゃん(夫)や子どもたちのためになりたい。仲良くしたい。
- 外にでたい！ 気晴らししたい！ 働きたい！
- 生き生きしている仲間をみると、元気が湧いてくる。
仲間に関会に行きたい。
- 絶望なんてしてられない・・・！ 一日一日、かけがいががない。

社会は変化し続けています。

認知症になっての生き方・支え方も変化し続けています。

認知症になってからも、安心・安全に外出を楽しめ
無事に家に帰れる地域づくりは、
超高齢社会の活路を拓く「時代の重要テーマ」。

一人ひとりがこれからも、自分らしく伸びやかに
暮らしていけるために、できることからアクションを
どうか、一緒に。



おつかれさまでした！

「見守り・SOS体制づくり 基本パッケージガイド」

検索



ダウンロードして、ご活用ください。

